

## 学生が、自身のことを 他の人に伝えられること

### 楽しかったか

友人  
仲間  
趣味  
スポーツ…

### 何を学んだか

学修内容

### どこで学んだか

学部・学科など

### 大学に通って 高められたか

教養  
問題意識  
コミュニケーション能力  
意欲(モチベーション)  
判断力…

### どのように学んだか

授業、実験、研究…

### 誰から学んだか

先生、先輩、職員、  
友人、仲間…

### 卒業するときに

・今、できることは何か  
・どれくらいできるのか  
・将来に向けて  
どんな努力をするのか  
(潜在能力)

### いつごろ学んだか

学期中、休暇中、  
その期間…



この数年間、大学における教育の質保証という表現が散見されるようになりました。

私たちの考える質保証は、

## 「学生が自身のことを他の人に伝えられること」

そのために、

学生たちが自分の学んだことを自分の言葉で伝えられるように教育します。

充実した専門科目、工学基礎科目、基礎・教養科目で教育します。

講義、演習、実習、研究室などさまざまな学修環境を用意しています。

教職員から教わることに加え、先輩、仲間、友人と共に学ぶ環境があります。

20歳前後の若者として、学修以外にも、さまざまな経験ができる場を提供します。

専門分野の知識、技術以外にも、いろいろな能力を高められる場を提供をします。

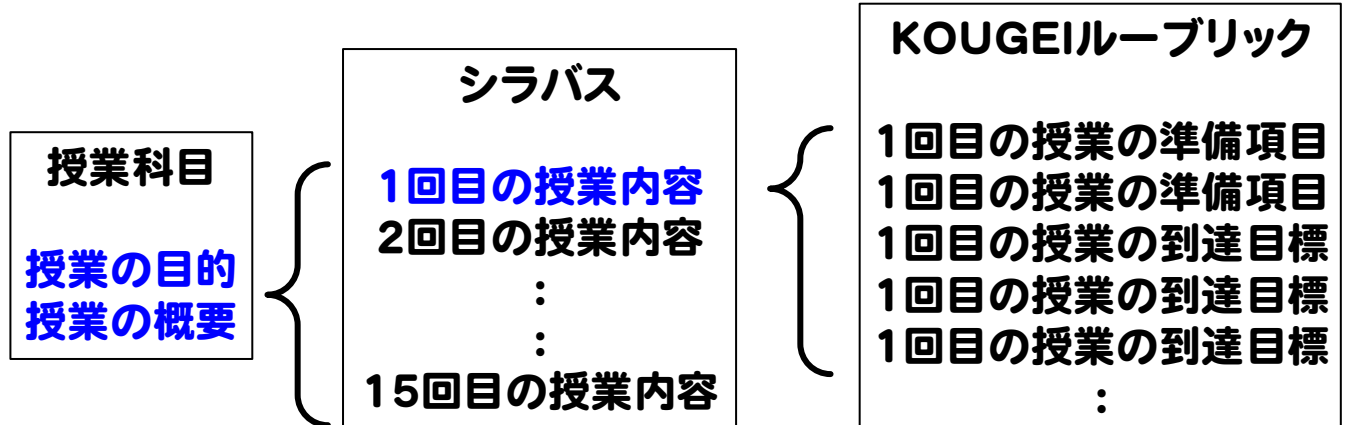
自己分析ができて、先の見通しを立てて行動できることの大切さを教えます。

工学部各学科の授業には進捗を実感できる仕組みがあります。

↓  
その仕組みとは？

## KOUGEIデジタルルーブリックの導入

KOUGEIルーブリックとは、教員が成績をつけるときにチェックする項目です  
(評価の観点)



評価の観点は、毎回の授業について定めた、授業を受ける前に理解しておくべきこと(準備項目)とその授業で理解すべきこと(到達目標)で構成されています。

評価の観点は公開されています。学生は評価の観点に沿って自分がそれを理解しているかどうかをセルフチェックします。

この仕組みを **学修セルフポートレート** と呼んでいます。

**特色1**  
教員と学生との  
価値観の共有

### 学修セルフポートレートの例

**特色2**  
主体性を育てる  
セルフチェック

番号	評価項目	できていない(0点)	ある程度できている(1点)	できている(2点)	評価
1	原子の構造、電子殻について説明できる			✓ 2015/10/5	2
2	陽イオン、陰イオン、イオンの生成について説明できる			✓ 2015/10/8	2
3	原子量、アボガドロ数について説明できる	✓			1
⋮					
10	水素の原子スペクトル及び原子スペクトルから明らかにされた原子の構造について説明できる			✓ 2015/11/12	2
11	ポーアの理論・ポーアの理論の拡張について説明できる		✓		1
⋮					
39	同一周期の原子半径の変化を原子の構造と関連付けて説明できる	✓			2
	軌道と電子配置から水分子の形状が直線でない、アンモニア分子が平面でない等の理由を説明できる		✓		1
合計点(100点満点)					82

評価項目を達成できたら、“できている”をチェックして、日付を書いておこう。

“できてない”項目はいつまでも残しておいたら大変！すぐに勉強しよう

もうちょっと勉強すれば達成できそう。先生に質問してみよう。

**特色3**  
Web上のデータを  
スマホで管理

合計点の満点が100点でない場合には適宜換算する

# 教育の特色（21世紀型市民を育成するカリキュラム）

21世紀型市民を育成する基礎・教養科目～工学基礎科目～専門科目

21世紀型市民<sup>§</sup>に求められる学士力が身につくカリキュラムとして、基礎教養科目、工学基礎科目、専門科目にそれぞれの目標を定めています。また、工学基礎科目と基礎・教養科目は入学までの学修歴の違いにも配慮します。

## 専門科目

メディア画像学科	生命環境化学科	建築学	コンピュータ応用学科	電子機械学科
----------	---------	-----	------------	--------

専門分野の知識・技術を身につける **目標**

## 工学基礎科目

<b>【必修科目】<sup>※1</sup></b> 工業英語 物理学実験 化学実験、など	<b>【選択科目】<sup>※1</sup></b> 解析学、工業数学 コンピュータリテラシー 情報処理演習 工学基礎実験 基礎画像電子工学 多変数の微分積分学 コンピュータ応用基礎セミナー コンピュータ基礎、など
<b>【コア科目(選択必修科目)】<sup>※2</sup></b> 線形代数、微分積分学 物理学、物理学演習 化学、化学演習、など	
入学までの理系科目	

工学部の学生としての素養を身につける **目標**

## 基礎・教養科目

<b>【心と身体科目】</b> 自己および自己の内面について学ぶ	<b>【コミュニケーション・スキル科目】</b> 自分と他の人との間で知情意を授受する言語技術を学ぶ	<b>【社会の仕組み科目】</b> 自己を取り巻く環境について学ぶ
入学までの基礎・教養		

大学生としての教養を身につける **目標**

<sup>§</sup> 21世紀型市民については、21世紀の日本の高等教育のあり方に関する基本的な考えをまとめた2008年の中央教育審議会の答申に記されている。この答申では今後求められる人材を21世紀型市民とし、その育成のために大学は国際的に通用する高等教育の質の保証と向上を図らねばならないという指摘がなされている。そして、4年間の勉学を修了した大学生（すなわち21世紀型市民）が兼ね備えるべき能力を学士力と呼び、その内容は①知識・理解（多文化・異文化に関する知識の理解、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解）、②汎用的技能（コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力）、③態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理性、市民としての社会的責任、生涯学習力）、④総合的な学習経験と創造的思考力、とされている。

# 教育の特色（グローバル化教育の実践）

## 21世紀型市民に求められるグローバル化教育の実践

卒業生が海外で活躍することに加え、海外からの来訪者を迎え入れる機会が増えることも注目されています。本学工学部では、コミュニケーションそのものを学ぶこと、語学を学ぶこと、自身と相手のことを学ぶこと、これをグローバル化の三要素として明確にし、語学科目だけでなく基礎・教養科目と連動させて魅力ある科目を系統的に開講しています。

### グローバル化の三要素

コミュニケーションを学ぶ

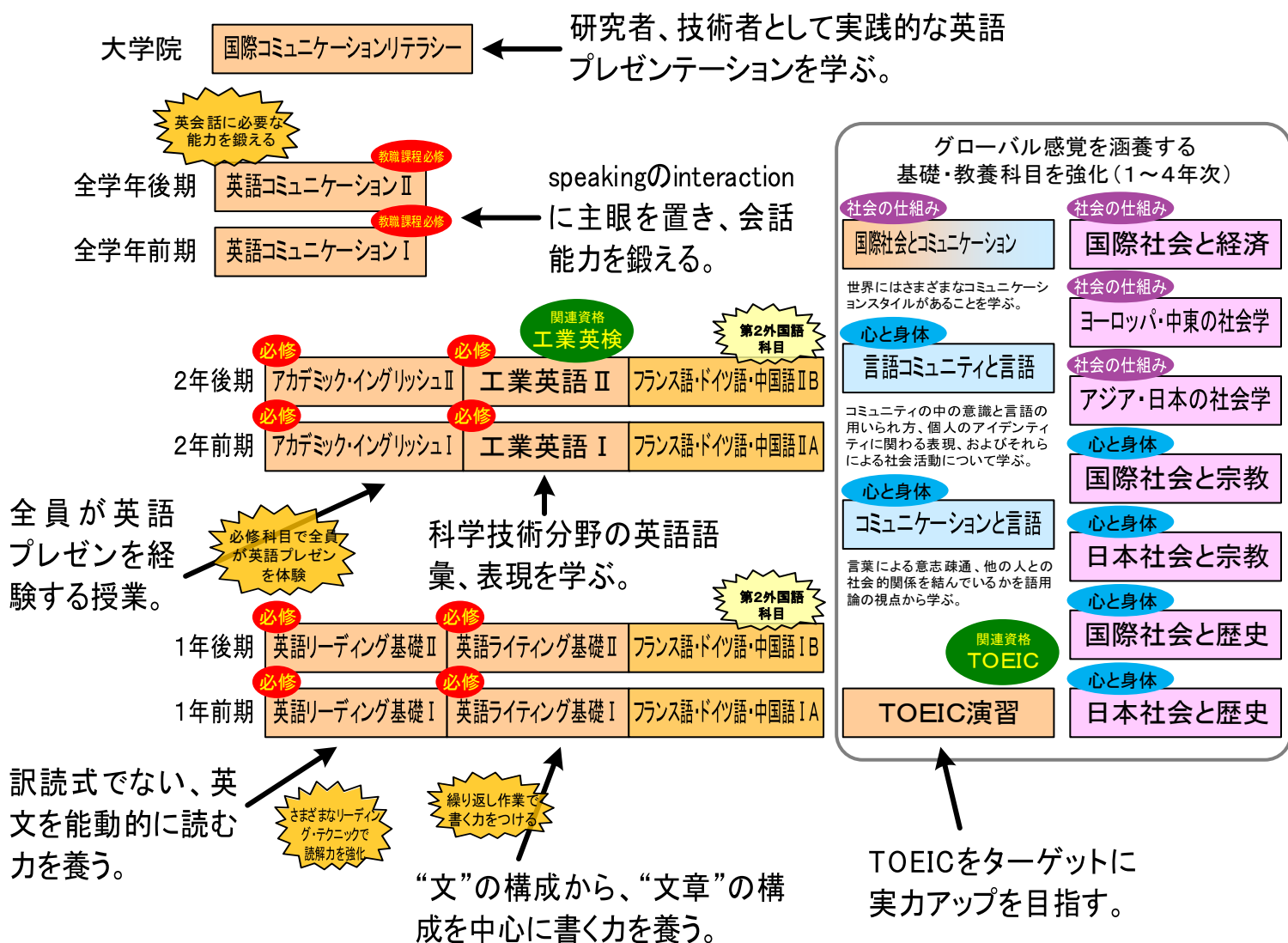
コミュニケーション=語学ではありません。コミュニケーションそのものを学びます。

国際交流、異文化交流の前提となる知識、作法を学ぶ

自分と相手の社会的、文化的背景の違いを知っておくことは、グローバル環境では新しい人間関係を速やかに構築するために重要です。

英語を学ぶ

国際共通語の英語を技能ごとに(リーディング、ライティング、スピーキング、プレゼンテーション)に学びます。また、工学部の学生として身につけたい工業英語、TOEIC受験を想定した演習、実践的な大学院の英語科目までを系統的に開講しています。



# 教育の特色（学術研究インターンシップによる高大接続改革）

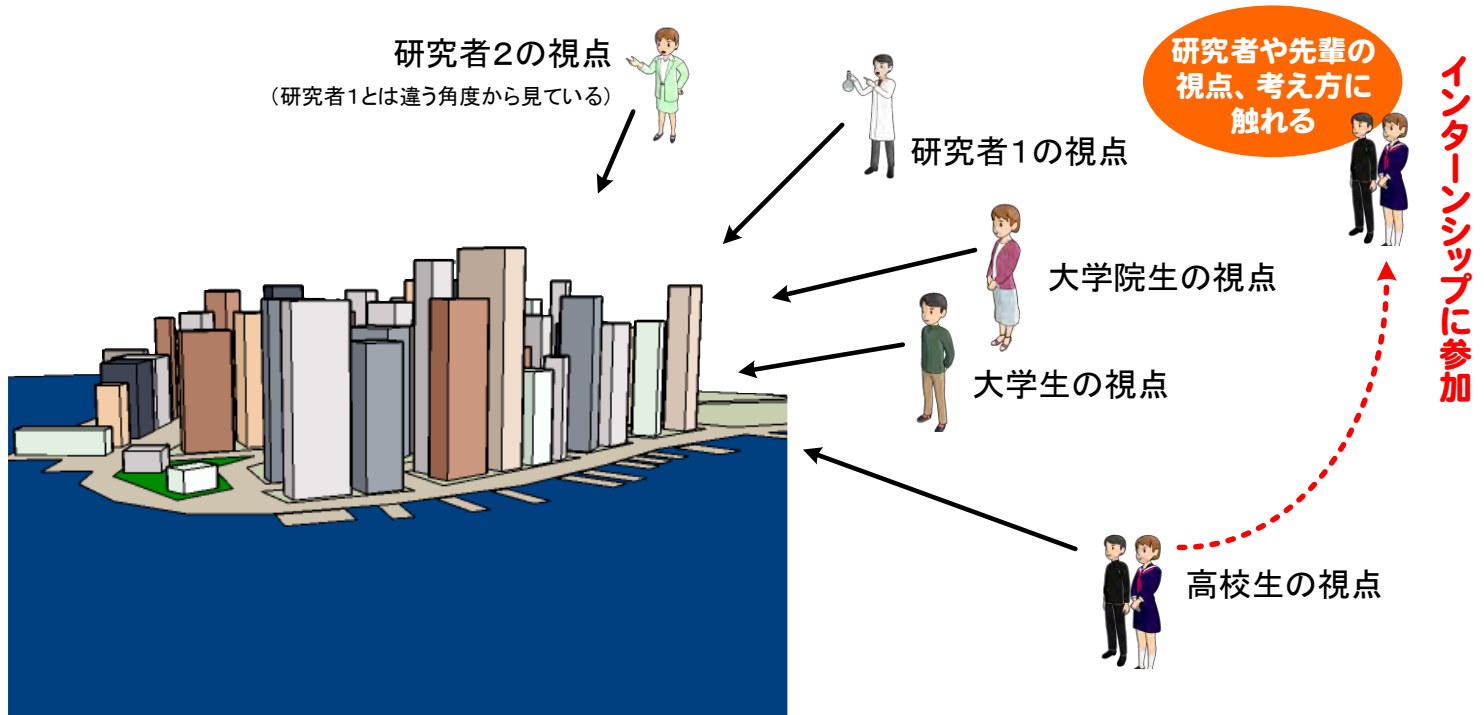
学術研究インターンシップとは、大学の研究室に通い、学術研究の現場を体験すること。（標準5日間）

1日目 教員あるいは大学生によるガイダンスとブリーフィングを行います。

2～5日目 ブリーフィングに沿って学術研究の現場を体験します。

なぜ、学術研究インターンシップは必要なのか？

専門分野は勉強すればするほど、視野が広がり、より広く、より遠くまで見通せるようになる。



## 高校2年生、1年生の皆さんへ 学術研究インターンシップへのお誘い

学術研究インターンシップは、皆さんが勉強する分野を選ぶ助けになるように提供している本学独自の仕組みです。

この企画では、大学生、大学院生、研究者の視点や考え方に触れ、一緒に仕事をする機会を提供します。研究室には皆さんから見て、自分の近い将来の姿にあたる人、将来の目標になる人がいると思います。

5日間、研究室に通い、教員、大学院生、卒研生とともに研究活動を体験します。なお、体験できる研究内容は毎年4月頃に高校宛てに案内しています。

**ぜひご参加を検討してください。**